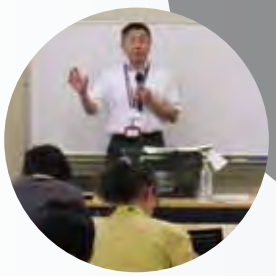
東京外国語大学オープンアカデミー
TUFS OPEN ACADEMY

多言語・多文化社会専門人材養成講座 2012



1 多文化社会コーディネーターコース

2 コミュニティ通訳コース

主催：国立大学法人 東京外国語大学社会連携事業室
企画・運営：多言語・多文化教育研究センター

多言語・多文化社会の課題解決に向けて

― 実践者のための専門人材養成講座 ―

昨年の東日本大震災では、多くの外国人住民が被災しました。日本語がわからずに津波にのまれた方もいました。こうした経験を踏まえて、「多文化防災」という視点から多言語支援のあり方や災害時における体制づくりが重要な課題として浮上してきています。同時に緊急時の即応体制は、平常時における取り組みがなければ機能しないことも見えてきました。各地域では、定住外国人の増加(注)によって、「多文化共生」をスローガンに様々な取り組みが行われてはきましたが、この震災を契機に事業の見直しの必要性や専門人材の必要性が認識されるようになりました。

多文化化による様々な問題の解決には、異なる言語や文化面の理解、共に生きるための施策や教育・こころの問題など幅広い知識と、多様な団体・専門家とのネットワーク構築や連携・協働のスキルを有した「多文化社会コーディネーター」、また言語的マイノリティをホスト社会につなげていく橋渡し役としての「コミュニティ通訳」といった専門人材が求められます。

本学では、こうした社会的要請に応えるため、2コースを併設した「多言語・多文化社会専門人材養成講座」を開講しています。今年度は、東日本大震災で明らかになってきた緊急時に求められる専門人材の役割や専門性、課題についても論及します。

「多文化共生」施策を担当されている自治体職員、国際交流協会職員、地域日本語教育や外国につながる子どもの学習支援等の活動に携わる方々、また外国人相談において相談員や通訳として活動されている方々など、多様な分野の実践者が、出会い、共に学び、議論することによって、それぞれの力量を形成し、さらに幅広いネットワークが構築されていく場になることを願っています。

注：外国人登録者数は、2011年9月末現在208万8,827人、震災後、外国人登録者の減少は見られるものの（9ヶ月で5万人弱の減／法務省調べ）、外国人の定住化傾向は顕著で永住の在留資格に変更する人が増加しています。

修了生の声

※所属はコース修了時のもの

多文化社会コーディネーターコース（4期生）

関 淳一（せきじゅんいち）さん
上田市市民生活部市民課主任

仕事に追われながらの受講となり厳しい部分もありましたが、講座の一連の流れは、コーディネーター養成のために吟味されてでき上がっていると思いました。最後のプレゼンテーションでは、論文をより効果的に伝えるために内容を客観的に分析する準備作業を行いました。この講座を加速装置として一挙に飛躍する事ができるかと言えば不安、というのが正直な気持ちですが、多文化共生社会を作り上げていく上で、協働を推進するコーディネーターの存在はなくてはならないものであることを十分認識することになりました。上田市の多文化共生政策に貢献できるよう、実践力を磨いてまいりたいと思います。

髙柳香代（たかやなぎかよ）さん
財団法人宮崎県国際交流協会職員

この講座を受けたことで、現在行っている仕事へのアプローチの視点が（劇的に）変わりました。自分の実践にこれだけ時間をかけて向き合ったことはほとんどなかったので、とてもいい経験になりました。また受講生同志のコメントは大変参考になるものでした。モニタリングでは、現場に実際に来ていただけたことで周囲の意識も変わり、その後の事業の進め方にも大きく影響しました。この機会は本当に貴重でした。遠方からの参加は時間的な制約もあり、体力的にも大変だったのは事実ですが、受講生との交流も含めて得るものが本当に多く、受講期間はそれを支えにしていました。

コミュニティ通訳コース（2期生）

岩田久美（いわたくみ）さん
フリーランス通訳・翻訳（スペイン語）

以前から「コミュニティ通訳」に関心を持っていましたが、今まで参加する機会のなかった新しい分野を開拓し、通訳としての技量を含めてさらにステップアップできれば、との気持ちから受講しました。結論をいえば予想以上に内容の濃い素晴らしい講義だったと感じています。また専門別科目で各分野の内容を学び、背景知識を中心とした勉強の必要性も実感しています。異なった言語、文化背景を持つ2者間のコミュニケーションの橋渡し役である「通訳」の仕事にこれまで関わってきましたが、その経験やテクニックを「プロボノ」として活かし、自分自身も生活しているコミュニティ＝ホスト社会に相談者をつなげていくこの仕事は、今後自分が積極的にかかわっていくべき仕事なのかもしれないと感じ始めています。

小鹿絵実（こしかえみ）さん
安城市市民生活部市民協働課嘱託職員（ポルトガル語）

ブラジルから日本に来て、学校や日常生活で言葉に不自由し、友達もできず狭い社会を生きていたが、ある日私の学校に県から通訳が派遣されることになった。私の言葉を理解し、それを周りに伝えてくれることが何よりも嬉しかったし、そんなことができる通訳はすごいと思った。自分も「学校という社会の一員である」と感じられたことをきっかけに「いつか日本とブラジルの架け橋になりたい!恩返しがしたい」と思うようになった。思い返してみれば、その時私が出会ったのは正にコミュニティ通訳者であり、私を言語面で支援し、ホスト社会につなげてくれた橋渡し役だった。「私も橋渡し役になろう」と志した時から数十年、「コミュニティ通訳」の存在を知り、コースを修了できたことを、今はただただ嬉しいと思う。

2つのコース・概要と流れ

①多文化社会コーディネーターコース(定員10名)

★多文化社会コーディネーターとは?

「あらゆる組織において、多様な人々との対話、共感、実践を引き出すため、「参加」→「協働」→「創造」のプロセスをデザインしながら、言語・文化の違いを超えてすべての人が共に生きることのできる社会の実現に向けてプログラムを構築・展開・推進する専門職」

②コミュニティ通訳コース(定員20名)

★コミュニティ通訳とは?

「言語的マイノリティーを通訳・翻訳面で支援することによって、ホスト社会につなげる橋渡し役」

※本コースは語学力を養成するものではありません。

共通必須科目

2つのコース合同で行われる集中講義(4日間)

8月24日(金)～27日(月)　9:00～17:30 (初日のみ10:00-17:30)

9月　　レポート提出 (4,000字)

専門別科目

【秋期】9月15日(土)～17日(月・祝)
9:00～17:30　※初日のみ10:00～17:30

ワークショップ中心の集中講座

【個別実践研究】10月～翌年1月

秋期専門別科目で検討した課題解決の方策を現場に持ち帰り、コーディネーターとしての実践を行います。

小論文提出 (10,000字程度)

【冬期】2013年2月23日(土)・24日(日)
9:00～17:30　※初日のみ10:00～17:30

プレゼンテーション中心の集中講座(2日間)

修了証の授与

修了後は…

- 全国フォーラムでの発表や、研究誌への投稿など、自らの実践を発信する機会を提供します。
- メーリングリスト等を通じて全国で活躍する修了生とのネットワークを築く機会を提供します。

専門別科目

9月21日(金)～23日(日)
9:00～17:30　※初日のみ10:00～17:30

集中講座(3日間)

到達度チェック (筆記)

修了証の授与

修了後は…

- 各種研修会等レベルアップを図る機会を提供します。
- 希望者を「コミュニティ通訳コース修了者」として登録し、弁護士会等から依頼のあった場合に紹介します。(2012年2月現在　登録者 9言語 37名)

≪活動実績≫　2010年10月～12年2月

通　訳		翻　訳	
英語	8	英語	2
スペイン語	6	スペイン語	2
ポルトガル語	2	ポルトガル語	2
中国語	31	中国語	5
モンゴル語	1	韓国・朝鮮語	1
インドネシア語	2	ベンガル語	1
ベトナム語	1		
ベンガル語	5		
計　8言語	56件	計　6言語	13件

※多言語・多文化教育研究センターでは、2006年から多分野の専門家と現場の実践者が協働することにより、日本の多言語・多文化社会の課題解決を目指す「協働実践研究プログラム」を展開し、その成果を「シリーズ多言語・多文化協働実践研究」1～14にまとめ刊行しました。その一部が講座のテキストとして使用されます。(P.3参照)

※ご希望の方には無料配布しています(送料のみ自己負担)。多言語・多文化教育研究センターホームページを参照し、お取り寄せください。
※受講者は当日ご持参ください。

コースの内容 共通必修科目

期間：2012年8月24日(金)～ 27日(月)
場所：東京外国語大学 府中キャンパス
内容：2つのコースを合同で開講。多言語・多文化社会に関する知識理解および課題の把握を目的に、4つの分野から学びます

■言語と文化 1～4
世界の言語・地域研究を専門とする本学教員の講義により、多言語・多文化社会における言語と文化に関連する事項について学びます。

■多言語・多文化社会論 1～3
日本における多言語・多文化社会の諸課題を政策・医療・教育の分野から把握します。

■多言語・多文化社会実践論 1～3
現場での諸課題を解決するのに必要な知識・手法を学びます。

■ワークショップ 1～3
課題の共有や振り返りをワークショップ形式で行ないます。

福祉・ソーシャルワーク

ワークショップ
レポートの書き方

※時間・内容等変更する場合もあります。

時間割	9:00 ～ 10:40	11:00 ～ 12:40	13:40 ～ 15:20	15:40 ～ 17:30
1日目 8月24日(金)		10:00～ オリエンテーション・ 多言語・多文化社会における専門人材とは 杉澤 経子 (多言語・多文化教育研究センター プロジェクトコーディネーター)	言語と文化① 多文化社会における文化とは 栗田 博之 (本学学術情報基盤長(兼附属図書館長)／ 大学院総合国際学研究院 教授)	ワークショップ1 応募時の小論文をベースに自己紹介 振り返り
2日目 8月25日(土)	言語と文化② 多文化社会における言語とは 藤井 毅 (本学大学院総合国際学研究院 教授)	多言語・多文化社会論① 国・自治体における 外国人の社会統合政策 渡戸 一郎 (明星大学人文学部 教授／移民政策学会会長)	多言語・多文化社会実践論① 在留資格制度とその実務 近江 愛子 (東京入国管理局総務課長)	ワークショップ2 実践を語り聴く 三輪 建二 (お茶の水女子大学大学院 教授)
3日目 8月26日(日)	言語と文化③ 多文化社会における宗教とは 青山 亨 (多言語・多文化教育研究センター長 ／本学大学院総合国際学研究院 教授)	多言語・多文化社会論② 異文化ストレスと 日本の医療システム 阿部 裕 (明治学院大学心理学部 教授)	多言語・多文化社会論③ 国際理解教育と地域日本語教育 杉澤 経子 (多言語・多文化教育研究センター プロジェクトコーディネーター)	ワークショップ3 レポートの書き方 長谷部 美佳 (多言語・多文化教育研究センター特任講師) 振り返り
4日目 8月27日(月)	言語と文化④ 日本語教育と年少者教育 小林 幸江 (本学留学生日本語教育センター 教授)	多言語・多文化社会実践論② 福祉・ソーシャルワーク 妻鹿 ふみ子 (東海大学健康科学部 教授)	多言語・多文化社会実践論③ ボランティア・協働・ネットワーク 後藤 麻理子 (特活・日本ボランティアコーディネーター協会 事務局長)	全体振り返りとまとめ

レポート提出（4,000字）：共通必修科目で得た知識を参考に、現場の課題を分析し実践の方向性をレポートにまとめます。

使用テキスト ■リーディングス(専門別科目で使用する資料集)

① 多文化社会コーディネーターコース

■シリーズ多言語・多文化協働実践研究
●No.11 これがコーディネーターだ!
— 多文化社会におけるコーディネーターの専門性と形成の視点 —
●No.14 多文化社会コーディネーターの専門性をどう形成するか
●別冊1 多文化社会に求められる人材とは?
「多文化社会コーディネーター養成プログラム」～その専門性と力量形成の取り組み～
●別冊2 外国人相談事業
— 実践のノウハウとその担い手 — ～連携・協働・ネットワークづくり～
●別冊3 多文化社会コーディネーター
専門性と社会的役割
—「多文化社会コーディネーター養成プログラム」の取り組みから —

② コミュニティ通訳コース

■ベルジュロ伊藤宏美 鶴田知佳子 内藤稔著『よくわかる逐次通訳』
東京外国語大学出版会 2,940円（*実費負担となります）
■シリーズ多言語・多文化協働実践研究
●別冊2 外国人相談事業
— 実践のノウハウとその担い手 — ～連携・協働・ネットワークづくり～

*参考資料として専門基礎用語集（英語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ベンガル語の14言語のうちいずれか1冊）を配付します。

講義概要

言語と文化

1.多文化社会における文化とは
8月24日(金)13:00〜14:40　講師:栗田 博之

「文化とは何か」を巡って文化人類学者は長い間議論を続けて来た。「人間が学習によって後天的に獲得したもの」であり、「生活様式全般」が含まれるという点では、ほぼ意見の一致を見るが、文化の担い手である人間の集団が文化を「共有」し、後の世代に「伝達」するという場合に、どのように集団を定義するか、どの程度の継続性を前提とするか等の点で文化人類学者ごとに見解は大きく分かれる事になる。このように「文化」の概念は曖昧であるにも関わらず、その文化の固有性を最大限に評価する文化相対主義は文化人類学を支える基本原理の一つであり、反人種主義のイデオロギーとして重要な役割を果たして来た。以上の点を文化人類学の様々な学説との関連の中で説明して行きたい。

2.多文化社会における言語とは
8月25日(土)9:00〜10:40　講師:藤井 毅

今日、地球上に存在する国家のなかで、多言語状況を抱えていないところは、存在しないといっても過言ではない。しかし、多言語状況とは、決して自然現象として存在するのではなく、当該社会のみならず、その構成単位においても、言語の多様性が意識され、制度化されるか否かは、歴史環境のなかで決まると考えられる。私たちは、そうした経験と記憶を背負いつつ移動し、定着していく。このことを理解するために、インドをはじめとするアジアのいくつかの国を事例として取り上げて検討を加えてみたい。ある人の国籍とその使用言語を単純に結び付けて考えてはいけないことをきちんと理解することが、最初の第一歩となる。

3.多文化社会における宗教とは
8月26日(日)9:00〜10:40　講師:青山 亨

この講義では多文化社会における宗教実践の一例としてインドネシアを取り上げる。インドネシアはイスラーム教徒の数では世界最大の国だが、バリ島のヒンドゥー教のようにイスラーム以外の宗教も公認されており、アジアの典型的な多民族・多宗教社会の一つということができる。日本との関係も深く、最近では、研修生や看護師・介護福祉士候補として毎年多くのインドネシア人が日本に派遣されている。この講義では、日本人の信仰、とくに「神」概念を再検討してから、イスラームという日本社会からはもっとも遠くにあると思われがちな宗教をとりあげ、イスラームについての基本的概念の理解からはじめて、一つの社会の中に多様な宗教実践者が共存する社会とはどのようなものであるかを、インドネシア社会を通じて考えていきたい。

4. 日本語教育と年少者教育
8月27日(月)9:00〜10:40　講師:小林 幸江

最近、公立学校で学ぶ日本語を母語としない子供たちが増えている。子供たちは、様々な背景を持って日本の学校に入学してくる。そこで、日本語を習得し、日本語による学びを通して年齢相応の発達をしていくことが求められる。子供たちにとっては、日本語は生活・学びのための大切な言葉であり、第二の母語とも言える。本講義では、子供たちが第二の母語を学ぶということはどんなことなのかということを中心に、子供たちへの学習支援のあり方を、第二言語習得と母語の関係から探っていきたい。

多言語・多文化社会論

1. 国・自治体における外国人の社会統合政策
8月25日(土)11:00〜12:40　講師:渡戸 一郎

移民政策は出入国管理政策と社会統合政策から成る。リーマンショックと東日本大震災によって日本に在住する外国人は減少傾向にあるが、在住している人は永住権などをもつ実質的な「移民」といえる人びとが多くを占めている。本講義では、こうした人びとに向けた社会統合政策の現状と課題を提示し、受講者とともに今後の望ましい方向を考えたい。なお、講義の導入部分では、日本における外国人受入れ政策の近年の動向についても取り上げたい。

2.異文化ストレスと日本の医療システム
8月26日(日)11:00〜12:40　講師:阿部 裕

日本に住む外国人はさまざまな異文化ストレスを抱えている。言語や習慣の違い、職場におけるストレス、対人関係ストレス、子どもの教育問題、母国に住む家族の問題、将来の生活設計。どれ一つとってみても、多文化間葛藤が関与している。東京の某クリニックで約4年間に500人近い外国人新患を診察している。パニック障害を含む不安障害と感情障害が多く見受けられた。これらの患者を診察して感じることは、精神障害の発症を防ぐにはいかなることができるか、である。外国人医療だけでなく、第1次予防という視点から外国人の支援ネットワーク化の重要性や、第2世代の育成の必要性、また日本の医療システムについても論ずる予定である。

3.国際理解教育と地域日本語教育
8月26日(日)13:40〜15:20　講師:杉澤 経子

1990年代を前後して、日本語がわからない外国人のために地域ではボランティアによる日本語教室が盛んに行われるようになった。また、学校では外国につながる子どもたちの増加によって様々な問題が顕在化してきている。こうした現象は、外国人側の問題として括られる場合が多いが問題は果たしてそれだけだろうか。「多文化共生」社会の実現という視点に立つならば、多文化化の問題をどう捉え解決していくべきなのか、国際理解教育の観点から、学校における国際理解の取り組みや、地域日本語教育の実践のあり方について考えてみたい。時間があれば、本センターの協働実践研究で開発した「居場所づくり尺度」についても触れる。

多言語・多文化社会実践論

1.在留資格制度とその実務
8月25日(土)13:40〜15:20　講師:近江 愛子

外国人が本邦において在留するためには「在留資格」を有していなければならず，また在留資格毎に法律で定められた一定の活動等以外を行うことはできない。在留資格に伴い在留期間が定められ，この期間を超えて在留することは法律に違反することになる。このように外国人が日本で安定的に在留されるためには，在留資格制度及び法令等の規定を理解し守っていただくことが重要である。特に，外国人相談や支援に携わる方は制度に係る法令の知識や実務的な知識の獲得が必要である。この講義では、外国人の定住化が進む中、本年7月9日から実施している新しい在留管理制度について説明し、「多文化共生」施策として法務省が実施している「ワンストップセンター」についても言及する。

2.福祉・ソーシャルワーク
8月27日(月)11:00〜12:40　講師:妻鹿 ふみ子

福祉とは、「ふつうのくらしのしあわせ」が実現された状態であり、ソーシャルワークはその福祉の実現のための援助の手法である。福祉を考えるときに重要なのは、制度や施策を組み合わせて福祉の実現をはかろうとすることだけでなく、支援が必要な人びとを排除せず、寄り添って必要なものを作り出すことである。専門職であるソーシャルワーカーが、市民を巻き込んでどのように福祉を実現させていくかが問われている。本講義では特に地域社会をフィールドに実践をするコミュニティソーシャルワーカーに焦点をあて、持続可能な福祉社会づくりの必要性とそのあり方を考えてみたい。

3.ボランティア・協働・ネットワーク
8月27日(月)13:40〜15:20　講師:後藤 麻理子

日本において「ボランティア」という言葉が初めて国語辞典に載ったのは、1969年のこと。当時は「奉仕活動」という言葉の方が一般的で、私心を抑えて他者のために尽くすといったイメージが強く、一部の限られた人々がするものと捉えられる傾向があった。しかし、阪神・淡路大震災をきっかけに多くの市民が自らのボランタリーな気持ちを行動に表し、95年はボランティア元年とも呼ばれている。その後の特定非営利活動促進法の成立により、ボランティア活動は個々の熱意を組織的・継続的な社会のしくみとしていく術を獲得し、NPOの結成も進んだ。ここでは、日本におけるボランティア活動の変遷とその特徴を〝つながり〟の視点から考える。

多文化社会コーディネーターコース
専門別科目 ― ペアワーク

コミュニティ通訳コース　専門別科目 ― 演習

❶ 多文化社会コーディネーターコース

秋　期

期間:2012年9月15日(土)～ 17日(月・祝)
場所:東京外国語大学 府中キャンパス
内容:自分の現場の実践の中で抱えている課題を再設定し、解決のための方策をコーディネーターの視点から実践的に学びます。

※時間・内容等変更する場合もあります。

時間割	9:00 ～	12:00	～17:30
1日目 9月15日(土)	10:00～ オリエンテーション	プレゼンテーション(レポート発表を中心に)	講　評 / 振り返り
2日目 9月16日(日)	コーディネーター論　基礎的実践・中核的実践	ワークショップ 協働の事業づくり～シミュレーション	振り返り
3日目 9月17日(月・祝)	アクションプランづくり	アクションプラン発表・個別実践研究に向けて	論文の書き方 / 全体振り返り

個別実践研究

期間:2012年10月～ 2013年1月
内容:秋期専門別科目で検討した課題解決の方策をコーディネーターとして実践し考察します。
運営メンバーが現地視察等を行い、モニタリング(※)やアドバイスを行います。

※ モニタリング…運営メンバーが、受講者の現場に出向き共同での「振り返り」を行うこと

小論文の提出（10,000字）　現場の実践のプロセスを記述し、自らのコーディネーター論としてまとめます。

モニタリング(意見交換会出席)

冬　期

期間:2013年2月23日(土)・24日(日)
場所:東京外国語大学 府中キャンパス
内容:10,000字の小論文の発表・議論を通してコーディネーター論をまとめます。

※時間・内容等変更する場合もあります。

時間割	9:00 ～	12:00	～17:30
1日目 2月23日(土)	10:00～ オリエンテーション	プレゼンテーション(小論文の発表を中心に)	振り返り
2日目 2月24日(日)	プレゼンテーション(小論文の発表を中心に)	コーディネーター論 まとめ / 講評	振り返り 修了証授与

担当講師

- **杉澤 経子**(すぎさわみちこ)　多言語・多文化教育研究センタープロジェクトコーディネーター
- **藤井 毅**(ふじいたけし)　本学大学院総合国際学研究院　教授
- **長谷部 美佳**(はせべみか)　多言語・多文化教育研究センター特任講師

❷ コミュニティ通訳コース

秋　期

期間:2012年9月21日(金)～ 23日(日)
場所:東京外国語大学 府中キャンパス
内容:コミュニティ通訳に必要とされる、司法、医療、行政、教育の4分野における基礎知識の理解を深めます。また通訳論、マナー、通訳技法の基礎については演習で実践的に学びます。最終日には到達度チェック(筆記)を行い、知識理解がなされているかチェックします(語学力の試験ではありません)。

※時間・内容等変更する場合もあります。

時間割	9:00 ～10:30	10:50 ～12:20	13:10 ～14:40	15:00 ～16:30	～17:30
1日目 9月21日(金)	10:00～ オリエンテーション	コミュニティ通訳概論 内藤 稔	通訳概論 鶴田 知佳子	課題・レポート講評 鶴田知佳子 内藤 稔	専門家相談 基礎知識 杉澤 経子
2日目 9月22日(土・祝)	基礎知識① 行政・教育分野 山野上 麻衣	基礎知識② 司法分野 金 秀玄	コミュニティ通訳活動の実際	コミュニティ翻訳、通訳のマナーと通訳技法の基礎 内藤 稔	
3日目 9月23日(日)	基礎知識③ 医療分野 押味 貴之	コミュニティ通訳演習 (ロールプレイング、ピアレビューなど) 内藤 稔		振り返り	到達度チェック・講評・まとめ 修了証授与 武田千香

担当講師

- コミュニティ通訳概論　ほか　**内藤 稔**(ないとうみのる) 多言語・多文化教育研究センター特任講師
- 通訳概論　**鶴田 知佳子**(つるたちかこ) 本学大学院総合国際学研究院　教授
- 専門家相談基礎知識　**杉澤 経子**(すぎさわみちこ) 多言語・多文化教育研究センタープロジェクトコーディネーター
- 基礎知識①行政・教育分野　**山野上 麻衣**(やまのうえまい) 国際移住機関(IOM)駐日事務所 就学支援事業担当
- 基礎知識②司法分野　**金 秀玄**(きむすひょん) 弁護士・東京パブリック法律事務所外国人部門
- 基礎知識③医療分野　**押味 貴之**(おしみたかゆき) 医師・日本大学医学部助教

■受講者募集から開講までのスケジュール

6月30日(土)必着	受講者募集	※提出書類の詳細はP.7参照 （提出された書類は返却いたしません。）
	書類選考	提出書類による書類選考
7月下旬	受講者決定／選考結果通知	選考の結果は郵送で通知 （受講決定者には受講の手続き、必読文献、会場等を記した「受講のしおり」を同封します。）
8月上旬以降		（辞退者が出た場合は、補欠の方へ繰上通知をします。）
受講者確定 受講料の納入期限 8月10日(金)		交通機関の手配・宿泊先の手配（各自）
8月24日(金)	開　講	東京外国語大学　府中キャンパス

注意事項

受講者の決定
応募書類による選考の上、結果を郵送で通知します（選考にもれた方にも郵送で通知します）。

受講料納入
受講料は前納制です。受講決定者に対し本学より送付する受講決定通知書をご覧の上、指定口座に8月10日（金）までに受講料を納入してください。口座振込に係る手数料はご本人負担でお願いします。一度納入された受講料は払い戻しできませんので、ご了承ください。

受講料
① 多文化社会コーディネーターコース　35,000円
② コミュニティ通訳コース　25,000円

受講のキャンセルについて
受講決定後、やむを得ず受講を取り消される場合は、速やかに「専門人材養成講座」係まで電話またはメールでご連絡ください。補欠の方を繰り上げます。

宿泊について
受講が決定した方は各自でご手配ください。本学近郊の宿泊施設については本学より送付する「受講のしおり」をご覧ください。

講座の中止
申込者が一定数に満たない場合、講座を中止することがあります。中止の決定は7月下旬に行い、申込者全員に連絡します。

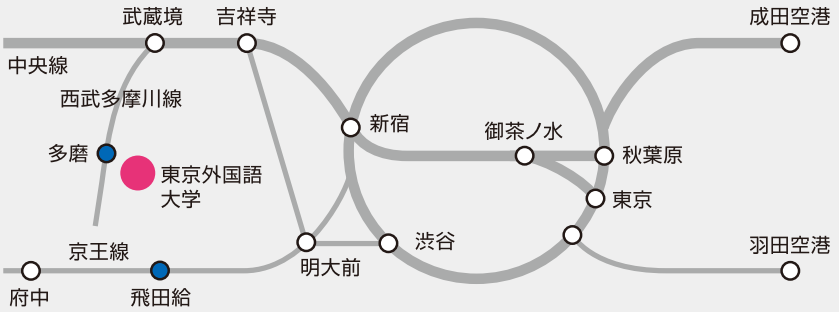
休講・補講
天候、交通機関などの事情により、やむを得ず休講となる場合は、原則として補講を行います。休講・補講の連絡先として、受講申込書には必ず日中に連絡が取れる連絡先をご記入ください。

録音・録画・写真撮影
原則として、講義中の録音、録画および教室内での写真撮影はお断りします。

受講資格の取り消し
次のような好ましくない行為があった場合は、教室からの退出、受講の停止、もしくは受講の取り消しをすることがあります。なお、受講料の返金はいたしません。
1.他の受講生の迷惑となる事や、授業の進行を妨げる様な行為を行った場合
2.受講の手続きや受講料の納付を完了していない場合
3.法令等や公序良俗に反する行為があった場合

その他
会場に駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

■アクセス＆マップ　東京外国語大学 府中キャンパス



◆JR中央線「武蔵境」駅乗り換え 西武多摩川線『多磨駅』下車 徒歩5分（JR新宿駅から約40分）
◆京王線「飛田給」駅北口より多磨駅行き京王バスで約10分『東京外国語大学前』下車

多言語・多文化社会専門人材養成講座

❶ 多文化社会コーディネーターコース

❷ コミュニティ通訳コース

多言語・多文化の現場で活動している皆様のご応募をお待ちしています。

		❶ 多文化社会コーディネーターコース	❷ コミュニティ通訳コース
対象者		行政、国際交流協会、公益団体、企業、地域日本語教室等、多言語・多文化に関する業務や活動を行っている組織の中堅スタッフの方	外国語（下記応募方法欄参照）の語学力があり、自治体、学校、国際交流協会、NPOなどの外国語相談や通訳など、現場の実践経験（ボランティアも可）がある方
定員		10人　（最少催行人数　8人）	20人　（最少催行人数　15人）
受講料		35,000円	25,000円　※テキストの一部は実費（P.3参照）
開講時期	共通必須科目	2012年8月24日（金）～27日（月）／4日間	
	専門別科目	秋期　2012年9月15日（土）～17日（月・祝）／3日間 個別実践研究期間　2012年10月～2013年1月 冬期　2013年2月23日（土）・24日（日）／2日間	2012年9月21日（金）～23日（日）／3日間
会場		東京外国語大学　府中キャンパス	

※最少催行人数に達しない場合は開講されませんのでご了承ください。

応募方法

■以下の書類を期限までに郵送してください。

(1)申込書

●所定の用紙（A4/1枚）を本センターホームページ http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/よりダウンロードの上ご記入ください。

●①多文化社会コーディネーターコースの方は、個別実践研究期間に現場でのモニタリングを実施しますので、所属長の推薦（署名・押印）を得てご応募ください。

(2)職務経歴および活動経験

●所定の用紙（A4/1枚）を本センターホームページよりダウンロードの上、自由に記入してください。

●用紙の右上に氏名を必ず記入してください。

(3)小論文

①多文化社会コーディネーターコース

【テーマ】「多文化社会とコーディネーター」

●日本語（A4/1枚 1,000字以内）

※現場における問題意識をベースに、コーディネーターの必要性や役割について記述してください

②コミュニティ通訳コース

【テーマ】「コミュニティ通訳の必要性と役割」

●日本語（A4/1枚　800字以内）

●日本語の小論文を専門の外国語に翻訳したもの（必ず自分で訳したもの）をA4用紙で提出してください

※小論文で語学力を評価するため、本学で対応できる以下の言語が対象となります。

英語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・スペイン語・ポルトガル語・ロシア語・ポーランド語・チェコ語・中国語・朝鮮語・モンゴル語・インドネシア語・マレーシア語・フィリピン語・タイ語・ラオス語・ベトナム語・カンボジア語・ビルマ語・ウルドゥー語・ヒンディー語・ベンガル語・アラビア語・ペルシア語・トルコ語の26言語　（それ以外の言語の方は事前にご相談ください）

※日本語小論文について（①②両コース共通）

●Wordで作成のこと。上下3cm、左右2cm余白を空ける。

●上部にテーマをゴシック体14ポイント、センタリングで記入し、その下に氏名・所属をセンタリングで記入。

●本文は40字×27行、明朝体11ポイント。

※応募書類は返却しません

●応募締切：2012年6月30日（土）必着

※応募書類は郵送してください

●結果：7月下旬に通知

■応募書類送付先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1 研究講義棟319
東京外国語大学　多言語・多文化教育研究センター
「専門人材養成講座」係

■問い合わせ

多言語・多文化教育研究センター
E-mail : koza2012@tufs.ac.jp
TEL: 042-330-5455
URL: http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/

多言語・多文化教育　検索